

---

# 首を締めて。

やぎ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

首を締めて。

### 【Nコード】

N4160P

### 【作者名】

やぎ

### 【あらすじ】

三題話です。病んでいますよ。

病弱 人肌恋しい 砂糖投げる

消毒用のアルコール臭い部屋。白いカーテンに白い布団。白が部屋の中を埋め尽くしている。

正直、入院生活は退屈なものだった。毎日毎日この部屋の中で変わらない景色を眺めるだけ。

元々、私は病弱で入退院を繰り返していた。だからか、あまり学校に行けなかった。男性の知り合いは少なかったし、あまり話も出来なかった。

中二の4月頃、体調がかなりよくなり数週間だけ学校に行っていた。クラス替えをして、知った顔知らない顔が居た。またちよとの間だけの関係だ。ふと隣の男子に眼を向けた。

その時、一目惚れをした。知的な目、色っぽい声、柔らかそうな唇、女性のように細い指。一瞬にして心奪われた。

好きだ。貴方に愛して欲しい。お願い。貴方なら良いから、貴方が良いから。

悶々としながら、春が過ぎ。また私は入院を余儀なくされた。また退屈な日々に戻る。

しかし、変わった。彼が毎日の様に来てくれるようになった。理由は知らない。けど、来てくれる。私の閉鎖された空間にわざわざだ。

今日も私の所に来てくれた。ベッドの隣に座り、何を話すわけではなく読書をする。貴方がいるから、私は幸せ。何も喋らない。何も語らない。けど私は暖かい。貴方がいるだけで暖かい。

彼が持ってきた薄い本を閉める。それが彼が帰る合図。

「じゃあね」

優しい笑顔を向けてくれる。その顔を見ただけで一瞬鼓動が上がる。

「また……来てね」

恐る恐る口に出す。いつも来てくれているが、惰性で来てるのではないか、その不安がいつもある。

「なるべく」

なるべく。来るか来ないか分からない言葉。けど、期待する。貴方がこの部屋の扉を叩くことを。少しはにかみながら入ってくるのを。

ベットから彼が離れて扉へと向かう。彼の広い肩をずっと見つめる。名残惜しさの欠片もなくさっと出る。そんな簡単に出ていかないで。

ああ、私は貴方の事が好き。貴方がどう思ってるかは知らない。だけど、愛して欲しい。好きだから愛して欲しい。

もし、私の事を愛せないなら、無理なら貴方の手で私の首を絞めて。死ぬ間に貴方の顔を見たら満足するし。貴方も、私の顔と感觸忘れられない。けど、それは最悪の場合。それは望まない。だからお願い、甘い甘い言葉をかけて。ねえ、お願いだから。次こそは愛してるって言って。

扉がゆっくりゆっくりと閉まっていく。彼が来るまで、この部屋に来るまで、私は愛をつのらせていく。愛して欲しい。次こそは。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4160p/>

---

首を締めて。

2010年12月10日23時53分発行